

途上国・本邦企業向け SDGs の推進

SDGs（持続可能な開発目標）と開発コンサルタントの役割

(1) SDGs の基本認識

SDGs（持続可能な開発目標）は、先のMDGs（ミレニアム開発目標）実施の間に地球温暖化や感染症に代表される人類の存続が脅かされるような地球規模の課題が広がったことを背景として、途上国・先進国を合わせた国連のすべての加盟国が合意して開始されたイニシアティブである。途上国のよりよい開発を支援する開発コンサルタントとして、SDGsの課題認識を以下に要約する。

- 1) 資源集約的で経済効率志向の20世紀型開発から、**持続可能な社会経済**へのパラダイムシフトが求められる。
- 2) 地球規模の課題は途上国に先鋭的に現れており、それらに取り組むうえでは**先進技術の適用**が必要である。

(2) SDGs への貢献

開発パラダイム（追求すべき開発の方向性）を転換するためには、国際機関や政府だけでなく民間企業や一般大衆の認識を高めることが必要であり、また上記課題認識2)から、先進国以上に途上国での取り組みが重要である。そして、先進国で開発された技術を途上国に適用するうえでは、途上国の社会・文化等に適合するような工夫や、技術革新が必要である。現状では、SDGs は先進国及び多国籍大企業を中心に推進されているが、途上国の視点及び先進国・途上国を合わせた**中小企業の取り組みも不可欠**である。

(3) SDGs における開発コンサルタントの役割

SDGs 推進のために、開発パラダイムの転換を現実的な構想に位置づけ、かつ政府機関の政策に精通し、政府の施策と民間の企業活動を有機的に結び付けることが出来る開発コンサルタントが SDGs の推進に果たす役割は極めて大きい。

SDGs への総合的な貢献

開発コンサルタント会社は、JICA や関係省庁、また国際機関のプロジェクトを通じて、途上国の開発課題、開発方針、ニーズ等に知悉しており、その実績、経験、専門性を生かし、SDGs の達成に積極的に貢献することが求められている。また同時に、自らも積極的に SDGs の推進にコミットメントすることが必要である。

SDGs プラットフォーム

日本の開発援助業界において、多くのコンサルタント会社が ECFA（一般社団法人海外コンサルタンツ協会）に所属しており、各社の情報共有、援助機関との交流、研究機関等との連携を図っている。この枠組みを活用し、ECFA が中心となり、SDGsへの各界の取り組みを有機的に連携することを目的としたプラットフォームを形成することが、SDGsの推進につながる。レックス社代表は、ECFAの理事を務めている。

MDGs（ミレニアム開発目標）



- ・ 8ゴール、21のターゲット
- ・ 途上国を対象
- ・ 国連専門家により検討
- ・ 人間開発に係る分野を中心
- ・ 各ゴールの並列的な取り扱い



SDGs（持続可能な開発目標）



- ・ 17ゴール、169のターゲット
- ・ 全世界の共通課題
- ・ 1千万人を超えるオープンな策定過程
- ・ 経済、社会、環境の側面を全方位カバー
- ・ 各ゴール、ターゲットの相互関連性（階層構造）



ECFA のネットワーク



レックス社が提供できる価値

(1) 企業コンサルティング

各企業がSDGsへ取り組むことにより、1)新規事業創発・価値の創造、2)ブランディング、3)活動の整理・改善、及び4)経営戦略・計画等、に貢献するため、以下のような手順（参考例）により、コンサルティング業務を行う。

(作業項目)

(作業実施者)

- | | |
|--------------------|-------------|
| ① ヒアリング、ブレインストーミング | 企業及びコンサルタント |
| ② 現況整理、課題確認 | コンサルタント |
| ③ SDGsの指標整理 | コンサルタント |
| ④ SDGsと活動内容を最終確認 | 企業及びコンサルタント |
| ⑤ 企業活動への落とし込み | 企業及びコンサルタント |
| ⑥ 資料作成（パンフレット作成含む） | コンサルタント |

レックス社のSDGsの取り組み

(1) グローバルコンパクトへの加入・署名



株式会社レックス・インターナショナル 代表取締役 橋本強司

レックス社は創業以来、一貫して社会的弱者の支援を理念に掲げて、政府開発援助（ODA）の効果高め、官民合わせた開発投資による社会の発展と豊かな暮らしへの貢献を目指しています。

国連グローバル・コンパクトによって、資源集約的で経済効率一辺倒ではない新しい開発パラダイムが模索されています。その中で途上国における民間企業による事業を、途上国の人々から見てよりよい形で実現すること、中小企業も含めて本邦企業の途上国における事業展開をお手伝いすることによって、日本の国際社会における存在意義を高めること、これらがレックス社の役割と任じています。グローバル企業によるCSRに留まらず、途上国とともに持続可能な開発パラダイムを追求する必要があると信じています。多くの本邦企業の方々と協力しつつ、地道な努力を続けていきたいと思っています。



グローバルコンパクトHPより

(3) レックス社のSDGs実績

レックス社のSDGs推進への取り組みを、JICAスキームの活用事例を中心に一部紹介する。

● 民間企業連携



【ソーシャルビジネス事業】

ミャンマー無農薬農業ビジネスと流通改善による貧困農家の所得向上と健康的生活促進調査（JICA：SDGsビジネス調査）

※実施中



【JICA 中小企業海外展開支援事業】

ベトナムダラット高原でのICT活用・次世代養液土耕栽培システム案件化調査

【JICA 中小企業海外展開支援事業】

イラン国ゲシュム島は、貧困問題とマーケット機会の限定により地域開発が遅れており、水産資源の高付加価値加工とマーケット開拓によって、地域振興を実現する。

※実施中



【環境・エネルギー事業】

モンゴル国ウランバートル市郊外において、10.3MWのを建設し、GHGの削減を行い、持続可能な電力を供給する。 ※実施中

(2) JICA等のSDGsビジネス支援事業への申請補助

JICA（国際協力機構）は、開発途上国の開発ニーズと本邦民間企業等の有する優れた製品・技術等とのマッチング支援事業を行っている。レックス社は、本事業の採択実績を数多く有しており、民間企業の技術を「見える化」する企画書・申請書の作成を通じて、企業活動に広く貢献している。

(3) SDGs 株価インデックス、SDGs 投資推進

「CSV」、「ESG投資」等の、財務情報以外の価値を考慮した投資に際し、SDGs達成度のインデックス化を図る。SDGs等の長期的な視点に立った経営コミットメントを行っている企業はTOPIXと同程度の運用成績をおさめているという報告もある。開発コンサルタント企業として、レックス社はSDGs達成度の定量化、及びソーシャルビジネス等を通じた、企業価値の最大化を行う。

(2) 産官学 SDGs 勉強会の開催

レックス社は、SDGsが、今後の民間投資・地域振興の趨勢であることを社内全体で共有しており、政策研究大学院大学とレックス社の共同開催にて「SDGsに係る産官学合同勉強会」を実施している。

当勉強会では、JICA（国際協力機構）の職員や、SDGsの取り組みを行っている一般企業も参加し、活発な意見交換を行っている。



● JICA開発調査



【モンゴル国国家総合開発計画策定プロジェクト】

国家総合開発計画を、モンゴル持続的開発ビジョンとSDGsとの関連性を整理し策定する。 ※実施中



【シエラレオネ国持続的稲作開発】

現地の自然環境・社会経済条件に応じた稲作技術パッケージ・マニュアルを作成し、その技術を農家に普及することで、長い内戦により荒廃した稲作を立て直す。 ※実施中



【ミャンマー国少数民族のための南東部地域総合開発計画プロジェクト】

少数民族を尊重し、地域の環境・社会・文化に配慮した開発モデルによる開発計画を策定し、住民参加型パイロット事業を実施した。



【ブータン国全国総合開発計画2030 策定プロジェクト】

ブータン初かつ日本の技術協力による初の全国総合開発計画。国民総幸福に代表される独自の開発理念、文化、伝統に沿った開発の方向性を定めた。